こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって　たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校
第　１３　号
令和６年１０月３１日発行
文責　校長　多久島　一仁

名護屋小との楽しいひとときを過ごしました

４年生のクイズ

１０月２９日（火）に名護屋小学校と交流学習を行いました。最初に体育館で、名護屋小の皆さんが勇壮なソーランを披露し、加唐小は、文化祭で踊ったダンスを披露しました。今年はアンコールがあり、名護屋小の先生と児童も一緒に踊る場面があり、盛り上げてくれました。

授業では、１年生は質問じゃんけんをしました。じゃんけんで勝った方が相手に質問をしていいというもので、次のじゃんけんに行くまでのタイミングがそれぞれ違いがあって、見ている方も楽しめました。３・４年生は背中にものの名前を書いた紙を貼り、「私は動物ですか？」などと質問しながら解いていく「私はだれでしょうクイズ」をしました。５年生は図工で、「言葉と音のしずく」というテーマで、「今日の天気のイメージは？」「名護屋小と加唐小のイメージは？」などとイメージを色で表したしずく作り、それをつなぎ合わせた飾りを作りました。6年生は、グループに分かれて「なぞとき」をしました。９つの質問（例：「お父さんカエルはケロケロケロ。お母さんカエルはケロケロ。では、子どものカエルは何と鳴く？」答えは裏面の最後！）にグループで力を合わせて解いていくというものです。

５年生の作品

昼休みの様子

昼休みには学年のみんなとグラウンドなどで遊びました。タイヤ鬼ごっこはタイヤの上を逃げ回り、タイヤから落ちたら鬼になるというものでした。

帰りには玄関の両側で列を作ってもらい、温かく見送っていただきました。

みんな笑顔になれた、楽しく充実した一日でした。

全障スポの話をしました

１０月３０日（水）の集会で、全国障害者スポーツ大会に卓球の審判として参加したときのことを話しました。私は車いすの選手と肢体不自由の選手の審判をしました。どの選手も一球一球を大切にし、とても真剣に試合をされていたことに感動しました。他にも、聴覚障がい、視覚障がい、知的障がい、精神障がいなど、さまざまな障がいがある方が参加されていました。

車いすでの卓球は前後左右に動くことができないため、サーブがサイドラインから外に出るものや、サーブが台上で止まるものは届かないため、レット（やり直し）になります。普段とは違うルールがいくつかあるので、難しかったです。中には手の力も弱く、手とラケットをバンドのようなもので巻いて試合をされている方もいらっしゃいました。立位でも脚が不自由な方がいらっしゃって、「僕たちのような障がいは、片方の脚に体重をかけるとバランスが崩れるから大変なんだよ」とおっしゃっていました。

視覚障がいの方がされるサウンド・テーブル・テニス（STT）も観戦しました。音がするボールを使用し、音だけを頼りに試合がなされます。エアーホッケーに近いもので、ネットの下を通す競技です。よくあれだけ速い球を、音だけで打てるものだと思いました。

今回の大会にはたくさんのボランティアの方も参加されていました。介助やお弁当のお世話、手話など、多くの方の支えがあったことにも感動しました。

最後に、ある方の言葉を紹介しました。「自分が障がい者になって、あれもできない、これもできない、と思っていた。だけど、障がい者スポーツを始めて、あれもできる、これもできると変わっていった。」スポーツの可能性とすばらしさを感じさせる言葉だと思いました。

※　クイズの答え…鳴かない（オタマジャクシだから）